

小金井みんなの公園プロジェクト play here

公園を、障害のあるなしに関わらず
誰もが自由に遊べる場所に
もっとしていきたい



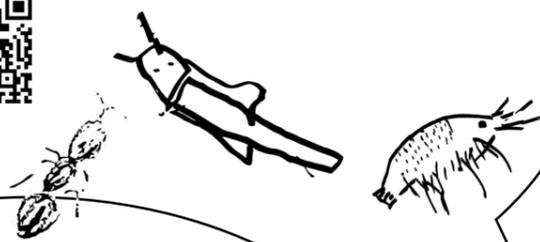
小金井の公園をもっとインクルーシブに！
どうなる？どうする？どうすべき？



毎年、鴨が子育てに訪れるこの池。
それを、さまざまな生き物がもつと
過ごしやすくなるためのビオトープに
していく計画が進められています。
春からは、植物を植えたり、
生き物を放つたり、お手入れをしたり、
観察をしたりする活動を進めています。
活動の詳細や参加者募集は、
小金井市の市報やプロジェクトの
Instagramにてご案内していきます。
是非、ご関心をお寄せください。



最新情報や参加者募集などの情報は
play hereのInstagramで発信していきます。
https://www.instagram.com/play_here_koganei/



水辺に親しみたい／生き物などの自然にふれあいたい／
のんびり風景を味わいたい／池の周りをぐるぐる回りた
い／トンボやカエルが暮らしていたら蚊が少なくなる？/
アオサギも来ないかな？／地域の人と顔なじみにりたい
／異年齢の子どもたちの出会いの場にしたい／この地域で
暮らしてよかったなと思いたい…

いろんな想いや興味関心があつまっています

栗山公園内の健康運動センターには、
「誰でもトイレ」があります。
また、「優先駐車場」もあります。

これは、障害のあるなしに関わらず、
誰もが公園に居てよいと思えるための取り組みです。

栗山公園のほぼお隣
理学療法士や作業療法士を育成する社会医学技術学院
とも連携しながら進めています



栗山公園の池を「みんな」で ビオトープにしていこう

- 【二〇二六年度予定】
- 四月 ハス・セリ植え付け
 - 五月 コウホネ・イグサ植え付け
 - 六月 クロモ植え付け・ヌマエビ放流
 - 七月 メダカ放流・イグサ刈り取り
 - 八月 夕涼み
 - 九月 自然観察会
 - 十月 公園内で素材ハンティング
 - 十一月 鳥の巣箱づくり
 - 十二月 どんどこ大掃除大作戦
 - 一月 バグホテルづくり
 - 二月 自然観察会・外来種より分け
 - 三月 春にむけて何植える？会議

「ビオトープづくりのこれまでとこれから」は 公式サイトで公開中です

<https://playhere.site/> 

「みんな」で集まって話し合ったことをもとに、
小学校で、子どもたちとビオトープづくりを
進めてきた関田義博先生（東京学芸大学・教授）
のアドバイスも頂きながら、とりまとめました。

集まった方々と一緒に、ビオトープも、
この計画も、育てていければと思います。



【お問合せ】
小金井市環境政策課
緑と公園係
tel. 042-387-9860



松田東子
公共R不動産研究所研究員
ビオトープ管理士



公園はみんなのものですが
その「みんな」というものに

入りづらい人がいます。たとえば
障害がある子どもたちや
保護者の方々です

いつも謝ってばかり。白い目で見られて心が折れる
(だから、人がいない早朝の公園で遊んでいる)。
我が子の安心安全が気がかりで休まらない。移動が
大変、誰でもトイレがない、だからそもそも、公園
に子どもを連れていけない。

多くの方からそのような声が寄せられました。それ
をなかつたことにしない。「みんな」というものを
考えなおす。公園を、社会を、誰もが居て良い楽し
いと思える場所にもっとしたい。小金井みんなの公
園プロジェクト「play here」は、そのような想い
でさまざまな活動を進めています。



水や自然に親しむことで

地域社会を豊かにしていく
公園は、未来のための「練習場」です

公園はどうあるべきか?という問いは、社会はどう
あるべきか?という問いとほとんど同じようなも
の。そして、公園は、より良い未来のための「練習
場」。そう捉えることで、公園はより「みんなのも
の」になっていくように思います。

ところで、「公園でしたい遊びは?」というアン
ケートで一番多かったのは、じゃぶじゃぶ池のよう
な水遊びというものでした。新規の整備を検討した
ところ、その整備費用も維持管理費用も、膨大な金
額になることが分かりました。そこで、頭を捻りな
がら考えたのは、今あるものを活かしていくという
方法です。

栗山公園の池により手をかけて、(水遊びとまでい
かないまでも)誰もが水や自然に親しみやすくなる
ようにする。車椅子やベビーカーでもアプローチし
やすくする。どのようなビオトープにしていくな
か?というところから「みんなで」考えたい。その
ようにして、参加型のビオトープづくりが始まりま
した。



ごちゃまぜ持ち寄りの
ピクニック気分を大切に

立場も年齢も背景も、ごちゃまぜ。それぞれが持ち
寄って、成り立つ。それは、「ピクニック的」ども
を、経験を、みんなで持ち寄る場をつくる。
Play hereのビオトープづくりは、そういったピク
ニック気分を大切にしています。

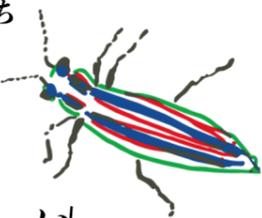
このパンフレットで使われているイラストは、その
際に子どもたちが描いてくれたもので、写真は、そ
のときの様子を写しているものです。

出たり入ったりがしやすい。それぞれの過ごし方が
できる。でも、なんとなく時間や場所や気分を共有
している。雑談に花が咲く。耳を傾け合う。そのよ
うにピクニックのような場であること。ピクニック
気分が社会に広がっていく。それを叶えたいと考え
ています。



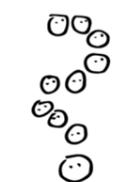
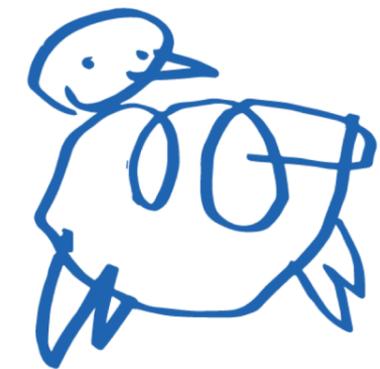
まさに、そのような意見がこのビオトープづくりに
向けて、子どもからも大人からも聞くことになりま
した。それがあるということだけで、希望になるも
の。人だけではなく、さまざまないのちが宿り、巡
るもの。そのためには、どのような工夫が、活動が、
哲学が必要か?

これは、それを試行錯誤しながら、地域の風景や習
慣にしていくなかでの取り組みであるように思います
栗山公園のビオトープづくりに、是非、遊びにいら
してください。



いのちを大切にしよう場所

ピクニック的に持ち寄り合って成り立たせていく。
これは、言い換えると「みんなでどうにかしてい
く」という意味では「自治的」とも言えます。文化
人類学者であり、埼玉の見沼で福祉農園を運営する
猪瀬浩平さんは、「自分たちにとって生きること
を励ます営みを生み出すこと、それを僕は「自治」と
呼びたい」と言い、「自分やほかの生命を大切にし
たいと思う(やさしさ)から生まれる」ものとして
自治を捉えています。



熊井晃史
play here共同ディレクター

